難波信由：第18回国際海藻シンポジウム（ノルウェー・ベルゲン）参加記

第18回国際海藻シンポジウムが2004年6月20日～6月25日にかけてノルウェー第2の都市ベルゲンで開催された。今回のシンポジウム参加は私にとって初めての北欧訪問であり，開催地であるベルゲンの港街ブリッゲン地区の三角屋根の家々や，街を取り囲む丘陵に立ち並ぶ中世風の家々は，日本にはない美しいものであった。そして，この家々を眺めながらの散歩は，私にとって心和む一時であった。一方，今回のシンポジウム開催国ノルウェーの物価が高いことは訪問前から聞いていたが，滞在期間中の飲食費を含む生活費全般の高さに，あらためて実感させられた。

ベルゲンの中心街に位置するシンポジウム会場グリークホールは，ベルゲンが生んだ世界的作曲家グリーク エドヴァルドを記念して建てられたもので，丘陵に立ち並ぶ家々とは違いグランドピアノを模した近代的な建造物であった。会場で渡された参加者名簿には，45カ国からの約320人の名が載っていたが，参加費やホテル代などの高いことから，実際の参加者は300人を下回っていたとのことである。一方，参加者名簿では日本からの参加者は 26名で，南アフリカで開催された前回の22名を上回っていた。韓国からの参加者も27名と多く，開催国のノルウェーと並んでいた。また，アジアや太平洋諸国からの参加者も多く，この地域の海藻研究に対する関心の高さが感じられた。

今回のシンポジウムは，基調講演，ミニシンポジウム，一般講演とポスター発表からなっていた。また，ミル属の生理・生態的研究を行っている私にとって，ニュージランドCRCセンターのSchaffelke先生が発表された，*Codium fragile* ssp. *tomentosoides*を含むいくつかの種の地球規模での拡大に関する基調講演は興味深いものであった。そして，シンポジウム会場でカリフォルニア大学のSilva先生にお会い出来たことも，私にとって大きな感動であった。

ミニシンポシンポジウムは，分類・系統発生，ケルプの生態，海藻養殖など6つのテーマについて行われた。私自身は一般講演で，マコンブ葉状部の生長様式と水温との関係について発表した。マコンブの研究を数年前から始めた私にとって，会場で受けた質問やアドバイスは，コンブ目植物に関する研究の現状や方向性をより良く理解する貴重な機会であった。今回のシンポジウムの一般講演は112件であったが，前回の南アフリカでのシンポジウムと同様に，ポスター発表は

写真2．街を囲む丘陵に立ち並ぶ家々

写真3．ベルゲンの中心街

写真1．港街ブリッゲン地区

写真4．シンポジウム会場のグリークホール

写真5．基調講演の会場

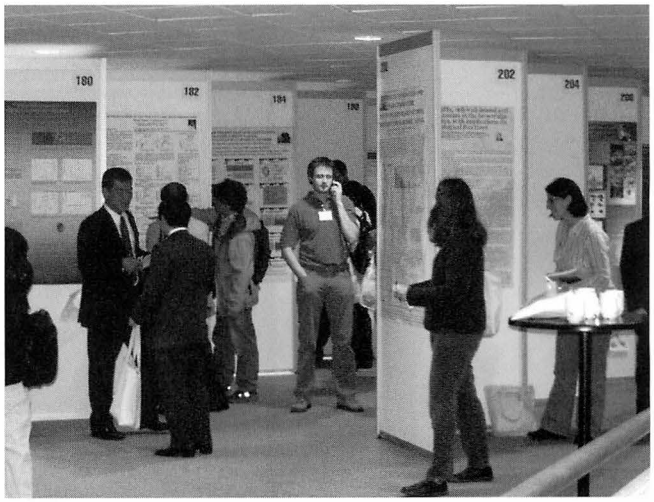

写真6．ポスター発表の会場

それを越える119件であった。

また，一般講演では生理・生態に関する発表が約3分の1を占めていたが，ポスター発表では，海藻多糖類，機能性成分や海藻養殖に関する発表が多くみられた。

シンポジウムの中日にはエクスカーションが行われ，フィヨルド，海藻採集，Marine Station，山歩きのツアーが企画されており，その中でも，多くの参加者がフィヨルドバス旅行に参加していた。この日の夕方には，大型帆船による夏至航海も催された。そして，翌日にはSymposium Dinnerがあり，ケーブルカーで登ったフロイエン山頂のフロイエンレストランで行われた。今回のシンポジウムが開催された6月下旬は，最も日が長い季節であり，山頂からは，Symposium Dinner後に美しいベルゲンの町と壮大なフィヨルドを眺めることができた。

シンポジウム最終日の閉会式では，高知大学の大野先生が，次回の開催地である神戸の紹介をされた。3年後のシンポジウムは，神戸の国際会議場で3月下旬に開催され，隣接するポートピアホテルがシンポジウム参加者には格安価格であることを紹介された際には，今回の開催地ベルゲンの物価の高さに驚いていた参加者から，歓声と大きな拍手が贈られた。日本で開催される次回のシンポジウムが，このような参加者から歓声と拍手が贈られるものになることを願っている。

最後に，今回のシンポジウムへの参加期間中お世話になった皆様に，この場を借りてお礼申し上げる。

（北里大学水産学部）